
初恋

桜井葵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初恋

【Zコード】

Z2807G

【作者名】

桜井葵

【あらすじ】

すゞくキレイで皆からも人気の彼女に1人思いをよせていく光。けど、その恋はかなうはずがない。だって、彼女は彼が好きなのだから・・・。

俺は、渡辺 光。

俺の初恋は、小学1年生のときだつた。

入学式が終わり、教室に入つた。

俺は1年1組だつた。

一番最後に入つてきた女の子と男の子がいた。
それが、「七瀬 紗」と「藤原 知夏」

大きくきらきら輝く目、
透き通るような真っ白の肌、
さらさらの明るめな茶色の髪、
小さい唇、
小学生にしては長い手足。

一目惚れだつた。

一瞬で好きになつた。

初恋だつたけど、すぐに好きだと分かつた。

あんなにキレイな彼女の周りにはいつもたくさんの人人がいた。

恋愛感情を持つ「男の子」

憧れ、信頼などで集まる「女の子」

けど、そいつらとは違つ気持ちで一緒に居る奴が「知夏」だった。

切れ長の目、
真つ黒でつやのある髪、
真つ白な肌、
すらりと伸びた手足。

2人とも、すごく大人に見えた。

彼女に近づく制限をしているのは「知夏」だった。

どうしても、近づきたかった俺は彼と友達になることにした。

「ねえ、名前なんていうの?」
知っているのになえて聞く。

「藤原 知夏。」

それだけ言って、彼女の方を向く知夏。

「僕は、渡辺 光。友達になつてくれる？」
知夏の田の前に顔を出して聞く。

「いいよ、別に。」
あいかわらず無表情で答える。

「ありがとう、知夏くん！」

「知夏。」

「え？」

訳が分からなくあんぐりとする。

「知夏でいいよ。それと・・・綾！――！――！
綾という声だけ透き通つていて、大きい。

「ん？なあーに？」
さつきまで囮まれていた、初恋の相手が近くに居た。

「こいつ、渡辺 光たつた今友達になつた。
僕を指さして言ひや。

「光？」

「そーうだ・・・よ。」

緊張で何言つているか分からなくなつてきた。

「輝ちゃんとかぶつてるから、光ちゃんでいい？私のことは綾つ
て呼んでね。」

そお言つて笑顔で見つめる。

「う、うん。」

きつと僕、顔赤いよな。

「よろしくね。」

「よろしくね。」

これがはじめての会話だった。

それから3人は仲良くなつて、ずっと一緒に遊んでいた。

でも、どんなに仲良くなつても、2人の中には入つていけなかつた。

結局は、「良い友達」止まり。

一緒にいて分かつた。

知夏は綾を、
綾は知夏を、

好きだという事が。

いや、好きというだけでは収まらない。

きっと、

愛してゐる。

なんだろ?。と云ふことが・・・

俺が5年生になったときに聞かされた「2人の過去」

『20歳までしか生きられない』

それを話している知夏の顔と

その隣にいる綾の顔から、本当だつていふことが分かつた。

けど、俺は綾が好きだった。

どんな過去があつても、20歳までしか生きられなくたつて、

俺は、綾が大好きだ。

これは俺が唯一、胸を張つて言えること。

最初は見た目だけで好きになつた俺だけど、今は違う。

勝気な性格、

意外と喧嘩つ早いところ、
自分がきれいだと思つていないとこり、
やさしいところ、
空が好きなところ、
頭がいいのに少し天然なところ、
俺より強いところ。

全てが好き。

「この恋は一生かなわない」ということは分かつていて。

でも、諦めることはできなかつた。

けつこうもてる俺は、たくさん告白を受けた。
けど、全て断つた。

高3にもなつて一回も付き合つたことないつて信じらんないだろ？

「え？ 紗が誘拐？」

「そ、 そつなんです！ それで今、 知夏さんが助けにいきました。

」

「で、 でも紗が誘拐されるって・・・」

「薬で眠らされてるみたいです。」

「許さねえ～！！！！！」

気がついたら飛び出していた。

「」にいるか分からぬのに走り続けていた。

やつと、 場所が分かつてたどり着いたときにはもう、 そこには誰も居なかつた。

次の日、 病院に行くと知夏は死んだと告げられ、 紗は消えていた。 それから彼女はどこへ行つたかわからない。

すごく不安だつた。

怖かつた。

紗の笑顔が見られないことがこんなにも不安なことだなんて、 考えた事がなかつた。

今は結局、彼女に会えたからよかつたものの、
後2年後また同じ気持ちにならなくてはいけない。

それに、もう一度と綾の笑顔を見ることができなくなってしまう。

あの時よりもっと、もっと
不安で怖いだろう。

だから、その分彼女と一緒に居たい。

でも、彼女は彼のものだから・・・。

俺が気安く触れてはいけない。

4月5日。

この日に2人は18歳になつた。

それと同時に一人は「夫婦」になってしまった。

結婚してしまったんだ。

「おめでとう。」

笑つて言えたのに、心のそこから言えなかつた自分に腹が立つた。

もう、諦めた方がいい。自分でも分かつている。
でも、綾の代わりになる女^{ひと}なんていない。
作りたくない！！！！

でも、もし、綾と顔も性格もすべて同じだったら好きになるだろ
う。

けど、それはきっと生まれ代わった「綾」なんだ。

そしたら、綾の近くには「知夏」がいる。

きっとまた、片想いをすることになるだらう。

綾は知夏が好きで、

知夏は綾が好きで・・・

俺は綾が好きで・・・・・・

それでも俺は彼女が好きだ。

だって、それが俺の初恋だったから。

この初恋が最初で最後。

『綾、俺は密かに君に恋をしているよ。』

昔も、これからずっと。

一生伝える事はできないけど・・・

好きだよ。

(後書き)

サブキャラの光くん。

かわいそうになっていますよね・・・

どうにかして幸せにしてあげたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2807g/>

初恋

2010年10月10日07時23分発行